

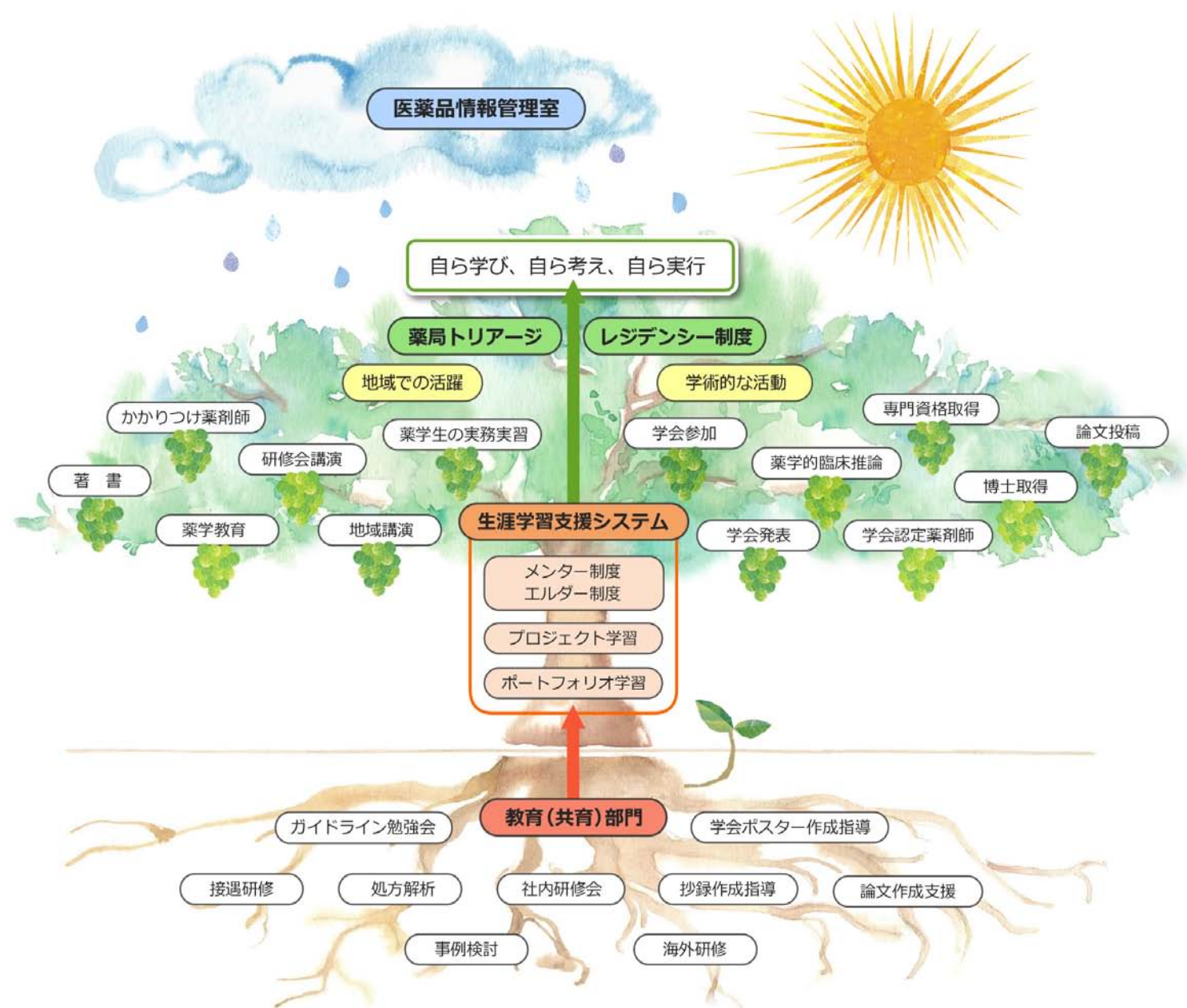
働きやすい職場づくり



人権・労働慣行

人材育成

マスカット薬局では、理念に掲げるとおり、すべての社員が会社の貴重な財産であると考えています。そのため「人材育成」に最も重点をおき、社員一人ひとりの自主性・主体性を重んじた、あらゆる角度からの教育に取り組み、生涯を通じた学習環境を構築しています。



家庭医療専門薬剤師レジデンス制度

レジデンス制度では第一線で活躍されている家庭医の下で、外来患者の予診・診療見学および訪問診療同行等を通し、家庭医療を実践的に学んでいます。

家庭医療では、「傾聴」を大切にします。“腹痛”という症状ひとつとっても、職場や学校での人間関係が関係していたり、ご家族や親しい知人との死別が関係していたりと、さまざまな背景因子が関与していることがあります。しかしながら、医療者が患者に心を寄せ、聴く姿勢を持たなければ、それらを見逃してしまいます。そこで当薬局では、この「傾聴」の姿勢を重視した対応を心掛けており、患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供できる薬剤師を目指しています。



レジデントで勉強会を立ち上げました

今年の春、新たに2人のレジデントを迎え、現在レジデントは5人となっています。その一人ひとりの背景はさまざまですが、地域に貢献できる薬剤師を目指す志と探求心は共通しています。そこで、意見を交換し、ともに学びあえる場を作りたいという思いから、レジデント全員の意志でこの勉強会を立ち上げました。

現在は、月に1回のペースでテーマを設定し活発な意見交換を行っています。これからもさまざまなことにチャレンジし、家庭医療専門薬剤師レジデンス制度を盛り上げていこうと考えています。



医薬品情報管理室の情報発信



医薬品情報管理室

行政・病院・薬剤師会・製薬会社・地域などに関連する、最新の医薬品や健康食品、健康などに関する情報を、薬局薬剤師の目線で収集・整理し、データベース化。また、各店舗にそれらを配信するとともに、全社員が必要な情報を利用できるよう、医薬品情報管理室のサイトの充実を図っています。

また、我が国の医療情勢から使用促進が求められている、ジェネリック医薬品（後発医薬品）の社内推奨の決定も行っています。その際、大切にしているのは「患者さん目線」。服薬に関わる情報が充実しているなど安心して提供できる製薬会社が製造し、患者さん一人ひとりに安心・安全に服薬してもらえるジェネリック医薬品を選定しています。

事務研修会

事務研修会は、事務員を対象に11月8日（日）に開催しました。「お客様の感動をよぶ業務改善 ～業務改善の一環として『接遇』」と題して開催しました。参加者35名。

「地域住民の視点に立った対応」、「店舗内で信頼される職員」をテーマとするロールプレーなど参加型の研修を行い、信頼される薬局事務職員となるために必要な接遇の基本、言葉遣い等を学びました。研修後は、参加者それぞれが研修で学んだことを各店舗に持ち帰り、実践に取り組んでいます。



薬剤師研修会



薬剤師研修会は、薬剤師を対象に11月11日（日）に開催しました。参加者32名。

まず理念・目的についての講演を聞いた後、「薬歴の書き方と記載ルールについて」、「教育のあり方について～メンター制度・エルダー制度、プロジェクト学習とポートフォリオ～」がテーマの講義を受け、さらに「取り組みに対する障害の抽出と改善策」、「指導方法での問題点と改善策」についてのワークショップを行いました。参加者は薬歴の書き方の見直しと教育方法を身につけ、現場に生かしています。

管理者研修会

管理者研修会は、管理薬剤師を対象に5月26日（日）に開催しました。参加者18名。

岩田純氏を講師に迎え、「効果的なリーダーシップ」と題した講演をしていただきました。その後、講演を踏まえて管理者の役割についてのグループワークを行いました。午後は、3年後のビジョン（2019年度）が発表され、それに対する理解を深める会となりました。



第9回 マスカット薬局イノベーション発表会・20周年記念式典

7月29日（日）に、第9回 マスカット薬局イノベーション発表会・20周年記念式典を行いました。各部門の部門長と各店舗の薬局長は半年度目標を発表。

記念講演では、お招きした特定非営利活動法人「青葉の樹」の山本章先生が、「薬剤師の自立を考える」と題してご講演。人生において「自立」が最も大切であると強調されました。



凝縮ポートフォリオ発表会



初めての凝縮ポートフォリオ発表会でしたが、学習者それぞれが上げた着実な学習成果を共有でき、ポートフォリオ学習が効果的な学習手法であることを改めて実感しました。教育部門は、今後も学習サポートを続けていく予定です。

3月30日（土）に開催した凝縮ポートフォリオ発表会に、発表者を含む41名が参加。まず、岩田純氏をお迎えし、「効果的なコミュニケーション」について講演していただきました。その後、ポートフォリオ学習者9名（薬剤師4名、管理栄養士2名、事務員3名）が、1年間の学習成果を「凝縮ポートフォリオ」にて発表。それを受けて、指導者であるエルダー（メンター）や店舗管理薬剤師、他の参加者らが振り返りのコメントを行いました。



合同研修会

3月3日（日）に、ネオフィスト研究所所長であり日本コミュニティファーマシー協会代表理事でもある吉岡ゆうこ氏をお迎えし、「5年先、10年先の薬局を見据えて」と題した講演をしていただきました。参加者53名。



人材育成支援制度

論文発表支援

日本認知症予防学会誌に 1 件掲載されました。

学会参加・発表支援

人材育成を考慮して、社員は毎日、目標をもって業務を行っていただいています。

2018 年度は、日本在宅薬学会学術大会、日本薬学教育学会大会、日本認知症予防学会学術集会、日本医療マネジメント学会・岡山県支部学術集会、日本医療薬学会年会、WONCA APR、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、日本緩和医療薬学会年会、日本臨床薬剤師シミュレーション教育研究会において 12 件の発表を行いました。



大学院博士課程支援

専攻分野について、研究者として研究活動を行い、また、専門的な業務に従事するに必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを目的として学べるよう支援しています。そして、研究により、医療の質向上に貢献できるよう努力しています。

2018 年度は、2 名在学中です。

2017 年度までにこの制度を使用しての博士号学位取得者は 1 名です。

各種認定薬剤師資格取得

・日本医療薬学会認定指導薬剤師	1 名
・日本医療薬学会認定薬剤師	1 名
・日本プライマリ・ケア認定薬剤師	2 名
・漢方薬・生薬認定薬剤師	1 名
・公認スポーツファーマシスト	3 名
・日本在宅薬学会公認ディレクター	2 名
・日本薬剤師研修センター認定薬剤師	26 名
・JPALS レベル 6	4 名
・JPALS レベル 5	19 名
・緩和薬物療法認定薬剤師	1 名
・日本認知症予防学会認知症予防専門士	1 名
・日本薬局学会認知症研修認定薬剤師	1 名
・災害医療支援薬剤師	1 名

公認スポーツファーマシストとは

公認スポーツファーマシストは、最新のアンチ・ドーピング規則に関する知識を有する薬剤師です。

薬剤師の資格を有した方が、（公財）日本アンチ・ドーピング機構が定める所定の課程（アンチ・ドーピングに関する内容）終了後に認定される資格制度です。

公認スポーツファーマシスト認定制度
ホームページより引用
<https://www.sp.playtruejapan.org/>

人事評価制度

全職員に対し多能者を目指して、資格・認定を取得することを奨励しています。取得者に対し、5 段階評価を行い、資格手当を支給しています。教育部門は、資格・認定取得に関する情報を会社内に周知し、年度計画に基づいて支援しています。

2018 年度の評価対象者

薬剤師 B 段階：1 名 / C 段階：1 名 / D 段階：1 名 **管理栄養士** E 段階：1 名 **事務** E 段階：1 名

表彰制度

諸々の活動を通じて会社貢献し並びに成長した社員を、毎年行われるイノベーション発表会後の懇親会場で授賞式を行います。今年度は、3 名と 1 店舗、1 グループが受賞されました。

コントリビューションアワード

優れた業績と創意工夫に溢れる活動により成果をあげ、自分自身の研鑽に努め、会社の発展に貢献

マスカットアワード

会社の理念に基づき、業績をあげ理念の実現に貢献

チャレンジアワード

新規分野や新しいことに積極的に取り組み、会社の発展に貢献

グッド・ジョブアワード

担当業務において、特に功績をあげ、会社の発展に貢献



重大リスク対策（社内チェック体制）



医薬品の業務に係る医療の安全を確保するため、「医療安全管理指針」を策定しています。調剤事故などが発生した際には、適切に対応するため、調剤事故などの情報が全職員から開設者に速やかに報告される体制を整備しています。また、重要なインシデント事例については、社内で情報を共有し、同じ事例を繰り返さないよう対策を行っています。

社内研修として、年 2 回全職員を対象とした医薬品の安全管理のための研修会を実施しています。

論文発表実績

日本認知症予防学会誌 (ISSN 2187-3798) Vol.8 No.2, 2018

- 保険薬局における認知症早期発見を目的とした タッチパネル式簡易検査を活用した受診勧奨の実践
The practice of medical consultation recommendation by touch panel-type examination for early detection of dementia in community pharmacy
・安倉央*)**・守安洋子*・高見陽一郎*)***・島田憲一***・江川孝**・高橋正志*
* 株式会社マスカット薬局 Muscat Pharmacy ** 福岡大学薬学部 臨床薬学教室 Faculty of Pharmaceutical Sciences, Fukuoka University *** 就実大学薬学部 School of Pharmacy, Shujitsu University

2019 年 6 月期 学会発表実績 (2018 年 7 月～2019 年 6 月)

第 11 回 日本在宅薬学会学術大会 大阪 2018 年 7 月 15 日～16 日

- 広域病院を含む多科受診患者に関する多職種連携の一例
・安野 和浩、杉浦 聡、田中 奈美、守安 洋子、高橋 正志

第 3 回 日本薬学教育学会大会 東京 2018 年 9 月 1 日～2 日

- 医学教育手法を取り入れた専門薬剤師教育
～カリキュラム評価導入による教育プログラムの継続的ブラッシュアップ～
・小川壮寛、松下明、守安洋子、松坂英樹、高見陽一郎、高橋正志
- 旧コアカリキュラムを修了した薬局薬剤師が考える薬学部教育と
臨床現場とのギャップおよびその解消に向けて
・懸山啓太、小川壮寛、守安洋子、高橋正志



第 8 回 日本認知症予防学会学術集会 東京 2018 年 9 月 22 日～24 日

- アルツハイマー型認知症の妻を持つ高次脳機能障害患者が在宅での服薬に成功した一症例
・安倉央、守安洋子、江川孝、高橋正志



日本医療マネジメント学会 第 21 回 岡山県支部学術集会 岡山 2018 年 9 月 29 日

- 高齢者支援センターと連携した地域に向けた認知症予防活動
・安倉央、守安洋子、江川孝、高橋正志

第 28 回 日本医療薬学会年会 神戸 2018 年 11 月 23 日～25 日

- 在宅医療における薬局薬剤師の経時的な介入内容について
・杉浦聡、北村佳久、高橋正志、千堂年昭
- 地域医療における共同薬物治療（CDTM）にむけた取り組み（第 6 報）
～ポジティブリストによる疑義照会業務の改善効果～
・小川壮寛、松下明、守安洋子、山崎桃子、懸山啓太、河南真衣、田中綾、中尾直、江川孝、島田憲一、高見陽一郎、高橋正志

WONCA APR 2019 京都 2019 年 5 月 15 日～18 日

- Approaching a medical consultation recommendation for the early detection of osteoporosis at community pharmacy
・Hiroshi Akura, Hiroko Moriyasu, Saya Nishigaki, Chiemi Shiraga, Masashi Takahashi, Takashi Egawa

第 10 回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 京都 2019 年 5 月 17 日～19 日

- 薬局薬剤師が行動科学的アプローチ法である「LEARN のアプローチ」を用い行動変容を促した 1 例
・懸山啓太、松下明、小川壮寛、川上茂利、藤本浩之、河南真依、田中綾、山崎桃子、高見陽一郎、守安洋子、高橋正志
- 「岡山発、もんげー違う!! 他職種の視点!! 医療・看護・介護職の視点を薬剤師が比較してみたら」
・田中綾、高見陽一郎、松下明、小川壮寛、川上茂利、藤本浩之、河南真依、懸山啓太、山崎桃子、守安洋子、高橋正志



第 13 回 日本緩和医療薬学会年会 千葉 2019 年 5 月 31 日～6 月 2 日

- 終末期患者の在宅訪問開始時における情報共有と介入について
・杉浦聡、高橋正志

日本臨床薬剤師シミュレーション教育研究会 岡山 2019 年 6 月 15 日

- 薬局薬剤師が行動科学的アプローチ法である「LEARN のアプローチ」を用い行動変容を促した 1 例
・懸山啓太

かかりつけ薬剤師・ かかりつけ薬局を目指して

消費者課題



教えて薬剤師さん・教えて管理栄養士さん

薬のこと、健康に関すること、また日頃感じている疑問にお答えできるように、「教えて薬剤師さん」、「教えて管理栄養士さん」を運営しています。また、ホームページでは一般市民の声や、よく受け付ける質問に関する回答を掲載しています。



教えて薬剤師さん WEB サイト
<https://oshiete-yakuzaishi.com/>



教えて管理栄養士さん WEB サイト
<https://oshiete-yakuzaishi.com/eiyoushi/>

セルフメディケーションへの取り組み

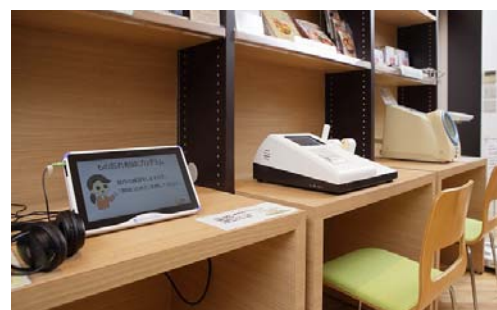
セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と世界保健機関（WHO）は定義しています。そのために、薬局は国民のセルフメディケーションの担い手として大きな責任を負っています。

私たちマスカット薬局では、薬のプロとして薬剤師と登録販売者が店頭で要指導医薬品や OTC 医薬品（一般用医薬品）・健康食品や衛生材料などの商品を販売しています。お客様に適切なアドバイスができるよう定期的に社員の研修会を実施しています。また、店頭での健康相談や、地域の方を招いて健康教室を開催するなど、地域の皆様の健康を守るお手伝いをおこなっています。



各種測定コーナー

私たちマスカット薬局では、地域の方々が健康についてセルフチェックが出来るようにとの思いで無料の測定機器を全店に設置しています。血圧計をはじめ、骨密度測定器、体組成計、物忘れ相談プログラム等、地域性を考慮して設置しています。



在宅医療

薬局が行う在宅医療とは、通院が困難な患者さんを対象として、医師の指示のもと、薬剤師が患者さんのご自宅や介護施設などへ訪問し、お薬をお渡ししたり、お薬の管理をしたりする医療サービスです。
マスカット薬局では現在 12 店舗で取り組んでいます。



クラスA Life の定期発行



私たちマスカット薬局も加盟するクラス A が毎月発行している健康情報誌『Life』をご来局いただいたみなさまに無料で配布させていただいています。

『Life』は、季節に合ったヘルスケア特集を中心に、身近な疾患のことや、薬局・薬剤師などの役割について掲載されており、患者さんの健康をサポートする健康情報紙です。

classA とは

株式会社クラスAネットワークが運営する薬局の活動を支援する団体です。全国で 5,700 の薬局が加盟しています。

顧客満足度調査

お客様に店頭で配布している健康情報誌 Life を利用してお客様アンケートを行っています。このアンケートは、薬局には匿名情報として classA 様より提供されています。
お寄せいただいた貴重なご意見・ご要望はサービスの改善・向上に活用させていただいています。
2018 年度のアンケート総数は、196 件でした。

個人情報保護

私たちマスカット薬局は、「個人情報の保護に関する法律」（以下、「個人情報保護法」）および「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」（厚生労働省策定）を遵守し、良質な薬局サービスを提供するために、皆様の個人情報を適切かつ万全の体制で取り扱っています。

信頼される薬局を目指して

公正な事業慣行



取引先との透明化

私たちマスカット薬局では、様々なメーカーから販売されているジェネリック医薬品の採用に際し、1成分1銘柄を基本としています。医療用医薬品の選定に際しては、納入価格ではなく、製品特性などの医薬品情報や安定供給が可能な商品であるかなどを総合的に判断し、患者さんにとっての最善を一番に考え、医薬品情報管理室が商品を選定しています。

独立性の確保

私たちマスカット薬局では、保険医療機関及び保険医療養担当規則の一部改正等に伴う実施上の留意事項について（平成8年3月8日、保険発第22号）にのっとり、他の保険医・保健医療機関との「一体的な構造」又は「一体的な経営」は行っていません。保険医又は保険医療機関に対して、患者さんに特定の保険薬局において調剤を受けるべき旨の指示等を行うことの代償として、金銭、物品、便益、労務、饗応、患者一部負担金の減免等の供与を行っていません。

適正な保険請求

私たちマスカット薬局は保険薬局であり、勤務する薬剤師は全て厚生労働大臣の登録を受けた保険薬剤師です。健康保険法等の各種関係法令に則り、薬学的に妥当適切な調剤と患者指導を行っています。また、請求についても調剤報酬点数表に定められた算定要件を満たした上で適正な保険請求を行っています。

公正な商品取引

薬局で主に扱う商品である医薬品は、病気の治療や予防の為に用いられ、使用者の生命にかかわります。マスカット薬局では、品質保証はもちろん流通経路に関しても、信頼のおける正規の医薬品卸売販売業社からのみ仕入・購入を行っています。

有資格者による接客

マスカット薬局には、薬剤師をはじめ、登録販売者・管理栄養士・健康運動指導士などの多くの有資格者が在籍しています。薬剤師は、医療保険制度に基づく調剤・投薬を行い、登録販売者とともに、一般用医薬品の販売・相談も行っています。管理栄養士は、栄養・食事に関する相談・指導を行っています。健康運動指導士は、健康水準を保持・増進する目的で運動教室を行うなど、それぞれの専門領域を通じ地域の方の健康増進に取り組んでいます。



晴れやかネットへの参加

「晴れやかネット」は、岡山県内の医療機関や薬局などが患者さんの同意のもと医療情報を共有する仕組みです。このシステムにより、患者様の医療機関での検査値や病名などの診療情報を薬局でも閲覧することができます。医療の質や安全性の向上に活用しています。」

晴れやかネット WEB サイト
URL : <https://hareyakanet.jp/>



地球環境負荷低減のために



環境

エコアクション 21

地球規模での温暖化をはじめ、異常気象の増加など地球の環境悪化が叫ばれています。このような時代の中、マスカット薬局も地域社会の一員として持続可能な社会の実現のため、地球環境保護活動に取り組む必要があります。環境保護活動を通じ、社員が地球環境に関心を持ち、自分のコトとして受け止められ、また、一個人としても、家族を含め環境活動に取り組む人間に育ってくれたらと考えています。

このような思いでマスカット薬局では、環境保全活動に取り組んできました。この度、環境省が策定したエコアクション 21 の認証取得に向けて取り組みを環境経営レポートとしてまとめ、2019 年 6 月 21 日に認証を得ることができました。

2018 年度は初年度のため対象期間は、2018 年 8 月～ 10 月で申請しています。



認証・登録番号 0012811

対象期間の実績

年度 項目		基準	対象期間における実績			
		2017 年度 (8 月～10 月)	(2018 年 8 月～10 月)			
			目標	実績	達成度	評価
I、二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	58,605	58,019	59,873	97%	▲
	対基準		△ 1%	+2%		
電力使用量削減	kWh	78,437	77,653	82,164	95%	×
	kg-CO ₂	54,435	53,891	57,022		
	対基準		△ 1%	+5%		
ガソリン 使用量削減	L	1,796	1,778	1,228	145%	●
	kg-CO ₂	4,169	4,128	2,851		
	対基準		△ 1%	△ 32%		
II、廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg	実績不明	実績把握	2,871	-	●
	対基準					
産業廃棄物 削減	kg	161.80	160.18	73.00	219%	●
	対基準		△ 1%	△ 55%		
III、水使用量削減	m ³	232.0	229.7	255.0	90%	×
	対基準		△ 1%	+10%		

※評価欄にて ●：達成 ▲：やや未達成 ×：未達成

具体的な取り組み

■ 空調温度の適正化 (冷房 24℃ 暖房 26℃)



■ 節水ポスター掲示



■ エコドライブの推進



■ グリーンカーテンの設置



倉敷店・湯郷店・しもまち薬局・東古松店では、夏の省エネ活動の一環として朝顔や夕顔、ゴーヤ等を栽培してグリーンカーテンを作成しています。店舗待合の大きな窓の外で栽培することで、真夏の太陽光を遮蔽し室内の温度上昇を抑え、エアコンなどの利用減少へとつなげています。

■ エコバッグの配布



健康教室などのイベント時はもちろん来局時にも、私たちが作成したマスカット薬局オリジナルのエコバッグを無料で配布しています。薬局利用時をはじめ、地域での買い物時などに利用していただき、ビニール袋の使用削減に取り組んでいます。

■ 自然エネルギーの利用（太陽光発電）



しもまち薬局では、開局時の 2015 年 9 月より薬局屋上に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを利用した発電をおこなっています。自然環境にやさしい「再生可能エネルギー」の利用を行うことで、限りある資源の使用量減少と環境破壊の減少の一助になればと考えています。

地域の健康を守るために

コミュニティへの参画



認定栄養ケア・ステーション



栄養ケア・ステーションとは、栄養ケアを地域住民の日常生活の場で実施提供する仕組みと、そのための拠点を指します。

日本栄養士会によって認定栄養ケアステーションとして登録されているマスカット薬局高梁店では、薬局内での栄養相談、地域の診療所と連携した外来栄養食事指導、在宅患者への訪問栄養食事指導、地域コミュニティでの栄養改善・食生活改善に関する健康教室開催などを実施。それらを通じ、地域の健康に貢献しています。

栄養相談・栄養指導

薬局では、薬や治療についての相談だけでなく、普段の生活の中での注意点や心がけについても多くの相談が寄せられます。

特に多いのが、「血糖値が高いと言われたけど何を食ったらよいかわからない」、「塩分を控えるように言われたけど何を食ったらいいの?」、「医者から痩せるように言われているけどどうしたらいいの?」など、毎日の食事についての相談です。これらに対してマスカット薬局では、食事・栄養の専門家である管理栄養士が応える体制を整えています。お客さまの相談や要望に合わせて管理栄養士が短期的・中長期的に関わり、薬剤師とも連携をとりながら対応することで、みなさまの毎日の食事や栄養に対する不安を払拭できるよう努めています。



学校薬剤師



学校薬剤師は、地域の幼稚園、小学校、中学校をはじめとする各学校に一人ずつおり、担当校の先生方とともに環境衛生維持に努めています。また、「おくすりの正しい使い方」や「喫煙・薬物乱用」、「ドーピング」についてきちんと理解し、健康な心と体を育み、将来の「夢」に向かって進んでもらいたいという願いから各種講演活動を行っています。

薬学生実務実習

マスカット薬局では、各店に認定実務実習指導薬剤師を配置し、将来薬剤師を目指す薬学生の実務実習を受け入れています。実習では、薬の専門家としてチーム医療に積極的に参画し、協働して最適な薬物療法を実践できる豊かな人間性と倫理感を持った薬剤師になってもらえるよう、実習を工夫しています。また、地域医療・福祉にも目をむけることができる薬剤師養成のために、他の職種の方とも連携しています。さらに、地域住民向けに行っているさまざまな健康測定会や講演も、実習の中で体験していただいています。薬学部が6年制となってから毎年受け入れを行い、2018年度は4名の実習を実施しました。過去にマスカット薬局で実習した学生は、現在薬剤師として臨床の現場で活躍してくれており、とてもうれしく思っています。

海外薬学生見学

10月16日にフィリピンの薬学部教授1名、講師1名、薬学生4名が日本における保険薬局の見学にこられました。処方箋受け取りから服薬指導までの調剤の流れ、OTC販売、そして医薬品情報管理室を見学した後、30分間の質問を受けました。医薬品情報管理室が医薬品情報などを15店舗に発信していることに興味をもち、驚かれていました。



中学生職場体験



マスカット薬局では、地域の中学生の職場体験を受け入れています。薬局の業務や薬剤師の仕事・医療事務の仕事を実際に体験していただきました。

3日間という短い期間でしたが、薬局や薬剤師・医療事務について理解し、健康の大切さを感じていただけました。2018年度の受け入れ人数は全店舗で13名です。

医療事務の専門学校生の職場見学

マスカット薬局では、学生の職場見学を受け入れています。最初に医療保険制度について説明し、処方箋受付・入力作業から普段見ることのない調剤室での様子、患者さんにお薬をお渡しするまでの一連の流れを実際に見て学んでいただきました。どのような業務を日々行っているのかを具体的に知ってもらうことで、保険薬局の業務に興味を持っていただけました。2018年度の受け入れ人数は全店舗で6名です。



おかやまケンコー大作戦

岡山市が SIB（ソーシャルインパクトボンド）を活用し、2019 年 4 月から実施している健康ポイント事業「おかやまケンコー大作戦」に、岡山市内の 5 店舗が健康ポイント付与店として参加。地域の方々の健康をサポートしています。（P11 参照）



薬局へ行こう！ウィーク



毎年 6 月 1 日～6 月 7 日の 1 週間に、「薬局へ行こう！ウィーク」を実施。ひとりでも多くの人に「薬局が地域の人たちの健康づくりのお手伝いができる場所だと知ってほしい！」という願いから、全国の薬局が一斉に行っているクラス A 主催のイベントです。今年は全国で 2,048 の薬局が参加し、全国的にも大変盛り上がりしました。

マスカット薬局では全店が参加。各種測定会、おすすめ商品の試飲試食会、塩分チェック、フレイルチェック、運動シナプソロジー、ハンドマッサージ、アロマスプレー作り、スタンプラリーなど、各店ごとに特徴あるイベントを実施し、多くの来店者でにぎわいました。



健康教室

各店舗で地域の皆様に健康情報の発信の場として、健康教室を開催しています。普段のお客様との会話の中や、メディアで注目を集めている情報などを中心に、身近な医療者として地域の皆様に講演をさせていただいています。高血圧や風邪などの日常の話題から、介護制度やジェネリック医薬品等の少し専門的な話題、そしてグルテンフリーなどの新しい話題など、今知っておいていただきたい内容をお届けしています。



地域での講演活動

地域のふれあいサロンをはじめ、老人会や介護施設、医療施設などから依頼を受けて、公民館や集会所などに出向き、講演や健康にまつわるイベントを開催。

各種機器を利用した測定会やロコモチェック、フレイルチェックを実施するなど、地域の皆さまの健康に役立つ取り組みを行っています。



食事相談試食会



料理教室



測定会



認知症カフェ

マスカット薬局総社店で認知症カフェ「マスカットカフェ」を開催。薬剤師や管理栄養士、健康運動指導士、また外部の専門講師によるお話やイベントを行い、認知症の悩みや健康についての相談にも応じています。

現在は奇数月第2火曜日に実施し、認知症の方やその家族、地域の方々が気軽に集える場として親しまれています。



物忘れ相談プログラム

マスカット薬局では、「もの忘れ相談プログラム MSP-1100」という機器をもちいて、認知症あるいは軽度認知機能障害（MCI）の早期発見と受診勧奨につとめています。薬局を利用している方だけでなく、地域住民に対しても、地域サロン、健康教室等の場で、出張測定会も行っています。測定会は地域包括支援センターと連携して実施し、測定後スコアが悪い方に対しては、必要な支援方法等を一緒に検討しています。



第三者意見

第三者意見執筆 任意団体『CSR 報告書を読む会』について

代表幹事 川元 盛樹

株式会社マスカット薬局 CSR レポート第 3 号の発行に当たり、第三者意見を担当する「CSR 報告書を読む会」は、2011 年より岡山県で、「組織の社会的責任についての調査・研究と勉強会の開催」を主な事業として活動している団体です。地元岡山を持続可能な地域にすべく、その実現に大きく関わる企業にスポットを当て、社会的責任に取り組んでいる優良な事例を紹介し、ボトムアップを図ろうという意思を持ったメンバーが集まり活動しています。勉強会では、岡山県内の企業を対象に企業やすべての団体・組織に適用可能な社会的責任に関する国際規格 ISO26000 を参考のガイドラインとして活用し、企業からゲストを招き、組織の社会的責任に関する活動を紹介した報告書や発表内容について、参加者と共にわからないことを確かめたり、意見交換を行い、対話を通じて学び、理解を深めています。これまでに、10 回の開催をしています。運営には、立場の異なる 4 名の幹事が関わり、NPO 法人の視点、環境専門家の視点、労働組合の視点、企業の CSR 担当の視点で CSR 活動についての検討、研究を行っています。



代表幹事 川元 盛樹
岡山県労働組合会議

【特筆すべき点】

自社の取り組みを SDGs に当てはめながら再検討し、ビジョン・方針を配置し直したことでより一層精査された取り組み内容になってきていることが読み取れます。医療制度の改変によってこれまで通りのサービスとしての医療・調剤では病院・薬局の存続は厳しくなると予想されます。「傾聴」を重視したレジデンシー制度によって、目の前の人に応じ必要なことを為すホスピタリティを実践する薬局への転換が見えます。

【さらに取り組みを期待する点】

取り組みが洗練されてきている一方で、現場の情景、地域の声が希薄になっているように見受けられます。企業として SDGs を進める上では、トップだけでなく現場で働いている一人ひとりの方向性が一致していることが必要です。SDGs に対する現場の受け取り、取り組みに対する地域の感想の見える化し、今後も一層企業の魅力を高められることを期待します。



幹事 石原 達也
特定非営利活動法人
岡山 NPO センター理事長

【特筆すべき点】

まずはこのレポートを継続して発行し続けていることが素晴らしいことです。一過性の取り組みではなくステークホルダーとのコミュニケーション手段として情報を整理し、発行し続けることがサステナビリティにつながっていくと考えます。その意味で、取り組み内容の中でも地域とのかかわりなどを継続していることが特筆すべき点だと思います。

【さらに取り組みを期待する点】

「かかりつけ薬剤師」が存在することは生活習慣病が増加すると共に、さらなる高齢化によるフレイル予防が重要となる社会においてますます重要となります。それぞれの薬剤師が様々な新技術や政策の動きなどで生まれてくるサービスをご利用者様と接続ができる状況、その人数の多さが可視化され、その価値が見えるような取り組み。こうした取り組みが薬剤師を通じてこのように広がったという部分がさらに見えてくるレポートとなることを期待します。



幹事 築谷 淳志
公益社団法人
岡山県環境保全事業団

【特筆すべき点】

貴社の CSR レポートも 3 年目となり、情報開示と発信を継続されていることに敬意を表します。今回は、SDGs への取り組み紹介や沿革の表現に、社会課題と自社の関係に理解を深め、読者に対する関心を引き出す意欲を感じました。セルフメディケーション、かかりつけ薬局、人材育成という貴社のビジョンが社員、顧客を始めとするステークホルダーに定着しているのではないのでしょうか。エコアクション 21 を活用した環境活動に取り組まれ、定量化された目標と結果が公表されていることも、前年からの進歩と考えます。

【さらに取り組みを期待する点】

理念や目的への通過点として、短期～中長期のあり姿をより具体化することに、成長の余地があると考えます。どのような理由でどう活動しているかだけでなく、どのような目標を掲げ活動した結果、どのような成果と課題を発見し、課題解決に今後どう取り組んでいくのか。これらの情報発信は、お客様や社員を始めとする読者に、貴社が持続的な成長可能性の高い組織であることを強く印象づけます。バランススコアカードや凝縮ポートフォリオを活用して、貴社の 3 つのビジョンを優先順位づけして対象を絞り込み、あり姿と将来の見通しをより具体化していくことを提案します。今後の貴社の発展と取り組みの進化を期待します。



幹事 小桐 登
岡山県ボランティア・
NPO 活動支援センター CSR 担当

【特筆すべき点】

昨年度指摘させて頂いた、SDGs の取り組みについては、経営の重点課題と結びつけて具体的に分かりやすく表現されています。過去の事業にも遡った表現により、社会課題解決に向けた事業の展開の取り組みは、他事業者の参考にもなると考えます。また、環境面での負荷削減にむけてエコアクション 21 を取り組まれたことは、評価されます。継続的活動での効果を期待します。

【さらに取り組みを期待する点】

SDGs に沿った経営課題の取り組みについては、環境面での表現にもあるように「目標、実績の評価、次期課題」を掲載することで、さらに PDCA のサイクルが社内外伝わり易くなると考えます。個別テーマでは有りますが、高齢化社会の進行とともに認知症患者数が増える中、交通事故等の報道なども多く見られます。既に、認知症への対応については、予防含め学会、店舗での対応をなされており、実績を挙げられています。今後は、認知症患者の関係団体等との取り組みなども行い、SDGs 17 の目標パートナーシップでの解決を強化をされることを期待します。

ご意見・ご感想をお聞かせください

マスカット薬局 CSR レポート 2018 についての
アンケートはこちらから

